

Cisco Business Dashboard Probeを使用したポート管理からのスイッチポートの設定

目的

Cisco Business Dashboard Network Managementには、Webブラウザを使用してシスコデバイスを含むネットワーク全体を簡単に管理できるツールが用意されています。ネットワーク内でサポートされているすべてのシスコデバイスを自動的に検出、監視、および設定します。

Cisco Business Dashboard Network Managementのポート管理機能は、スイッチポートを含むネットワーク内の各デバイスのパネルビューを提供します。この機能を使用すると、トラフィックカウンタを含むポートのステータスを表示できます。また、ポートの設定(速度/デュプレックス、Power over Ethernet(PoE)設定、Energy Efficient Ethernet(EEE)、仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)など)を変更することもできます。このページでは、SmartportをサポートするデバイスのポートのSmartportsルールを表示および設定することもできます。検索ボックスを使用して、表示されるデバイスを制限することもできます。デバイス名、製品ID、またはシリアル番号のすべてまたは一部を入力して、目的のデバイスを検索できます。

ポート管理には、デバイスの2つの異なるビューがあります。

- **Physical** : このビューでは、物理層のポートのステータスを確認し、設定を変更できます。速度、デュプレックス、フロー制御、EEE、PoE、およびVLANの設定を表示または変更できます。各ポートには緑色のLEDが表示され、接続されたデバイスに電力が供給されていることを示す黄色のLEDが表示されます。
- **Smartports** : このビューでは、現在のSmartportsルールを表示し、各ポートのルールを変更できます。各ポートは、現在のルールを示すアイコンでオーバーレイされます。

このドキュメントの目的は、Cisco Business Dashboard Probeのポート管理機能を使用して、デバイスのスイッチポートを表示および設定する方法を示すことです。

該当するデバイス | ソフトウェアバージョン


- Cisco Business Dashboard | 2.2


スイッチポートの表示と設定


物理ビューでのスイッチポートの表示と設定

ステップ1: Cisco Business Dashboard Probeの管理GUIにログインし、[Port Management]を選択します。

Cisco Business Dashboard

 Dashboard

 Network

 Inventory

 Port Management

このページには、ネットワーク内のデバイスの前面パネルが表示されます。このパネルには、Physicalビューにスイッチポートがあります。

ステップ2：確認または設定するポートをクリックします。

SG350-8PD

Model Information: SG350-8PD Serial Number: PS  J



注：特定のポートに関するすべての情報（現在の設定、ステータス、トラフィックカウンタ、VLANなど）が表示されます。

gi2
No interface description configured

General

Operational Status Up
Admin Status Up
MAC Address A0:10:00:00:00:00:FB
Duplex Full
Auto Negotiate Enabled
Speed 1000M
Bytes Received 395.44MB
Bytes Sent 6.65GB
Pkts Received 2298369
Pkts Sent 64035243
Neighbor CP-8865

Ethernet

Speed Auto
Duplex Auto

注：この例では、gi2が選択されています。

ステップ3：イーサネットの横にある編集アイコンをクリックして、速度/デュプレックスを設定します。

注：設定する設定に応じて、すべての手順はオプションです。

Ethernet

Speed Auto
Duplex Auto

ステップ4:[Speed/Duplex (速度/デュプレックス)]ドロップダウンリストをクリックして、優先する速度とデュプレックスを選択します。

Ethernet



Speed

Auto

Duplex

1000M

100M

VLAN

10M

Auto

Native VLAN

Ethernet



Speed

Auto

Duplex

Auto

Half

VLAN

Full

Native VLAN

Auto

PoE設定の設定

ステップ5:PoEを設定するには、編集アイコンをクリックします。

POE



PoE Enable

Power Class 4

Power Allocated(mW) 30000

Power Usage(mW) 6100

PoE Priority Low

PoE Schedule

Toggle Power

Toggle Power

ステップ6:[PoE Enable]チェックボックスをオンにしてPoEを有効にし、以下のPoE設定を行います。

- [PoEプライオリティ(PoE Priority)] : プライオリティ番号に応じて、デバイス上の他のポートよりも先に電力を供給する特定のポートのプライオリティを設定します。
- [PoEスケジュール(PoE Schedule)]:PoEポートをシャットダウンして電源をオンにして、エネルギーを節約するスケジュールを設定します。

POE



1

PoE Enable

Power Class 4

Power Allocated(mW) 30000

Power Usage(mW) 6100 2

PoE Priority Low ▾

PoE Schedule No Schedule ▾

Toggle Power

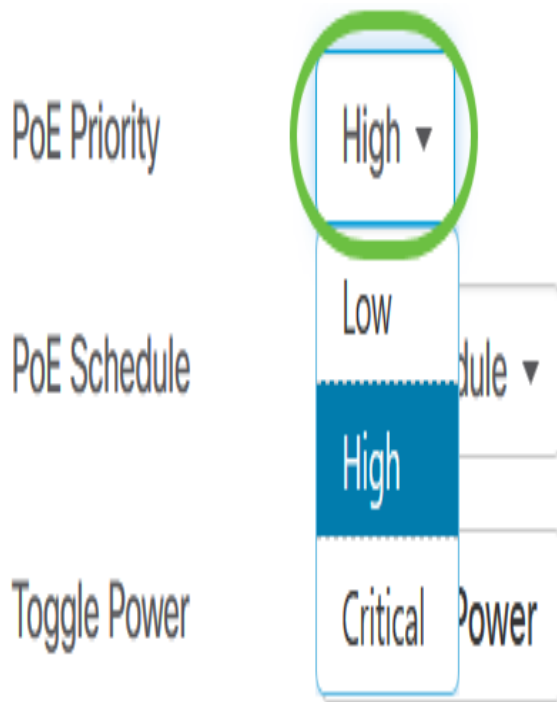
Toggle Power

注：この機能はデフォルトで有効になっています。

ステップ7:[PoE Priority]ドロップダウンリストをクリックして、[PoE Priority]を選択します。次のオプションがあります。

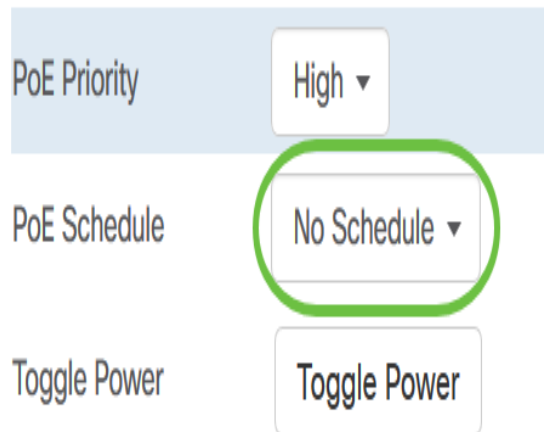
- Critical : このプライオリティクラスは常に電力を受け取ります。すべてのポートに電力が供給されない場合、このクラスで割り当てられたポートが優先順位付けされます。
- [高(High)] : すべてのクリティカル優先ポートが電力を受け取っている場合にのみ、電力を受け取ります。
- [低(Low)] : すべてのクリティカル優先ポートと高優先ポートが電力を受け取っている場合に

のみ、電力を受け取ります。



注：この例では、[High]が選択されています。

ステップ8:[PoE Schedule]ドロップダウンリストをクリックして、PoEスケジュールを設定します。



EEEの有効化

ステップ9:[Green Ethernet]の横の[Edit]アイコンをクリックします。

Green Ethernet



EEE Enable

Short Reach

ステップ10:[EEE Enable]チェックボックスをオンにしてEEEを有効にします。これにより、ネットワーク内のデータが少ない時間帯の消費電力を削減できます。

Green Ethernet



EEE Enable

Short Reach

ステップ11: EEE短距離を有効にするには、「**EEE短距離**」チェックボックスをオンにします。このメカニズムを使用すると、リンクを正常に処理できる電力よりも少ない電力で実行できます。これは、伝送可能な電力の制限がある一部の着脱可能モジュールの制限が通常の電力よりも少ないため、主にギガビットイーサネットリンクで使用されたため、ギガビットリンクの電力を削減する必要がありました。このモードは、スイッチにギガビットイーサネットポートがある場合にのみ可能です。

注：短距離を有効にする場合は、EEEモードを無効にする必要があります。

EEE Enable Short Reach

VLANの設定

ステップ12:[VLAN Setting]で、[Select VLAN]ボタンをクリックして既存のVLANからネイティブVLANまたはアクセスVLANを割り当てるか、または[Create VLAN]ボタンをクリックして新しいVLANをを作成します。この例では、[Create VLAN]が選択されています。

VLAN

Native VLAN 1

Trunk VLAN(s)

VLAN Setting

Select VLAN

Create VLAN

ステップ13:[VLAN ID]フィールドにVLAN IDを入力します。

Create VLAN

VLAN ID ✓

VLAN Name

Create on all devices in the same group

Create on all devices in the organization

注：この例では、使用されているVLAN IDは12です。

ステップ14:[VLAN Name]フィールドにVLAN名を入力します。

Create VLAN

VLAN ID ✓

VLAN Name ✓

注：この例では、VLAN12が使用されています。

ステップ15：オプションボタンをクリックして、VLANを作成するデバイスを選択します。

Create VLAN

VLAN ID ✓

VLAN Name ✓

Create on all devices in the same group

Create on all devices in the organization

ステップ16:[Save]をクリックします。

VLAN ID 12 ✓

VLAN Name VLAN12 ✓

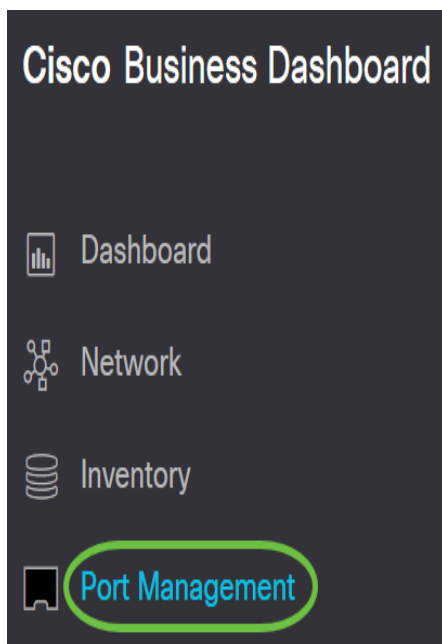
 Create on all devices in the same group Create on all devices in the organization

Save

Cancel

Smartports Viewでのスイッチポートの表示と設定

ステップ1: Cisco Business Dashboard Probeの管理GUIにログインし、[Port Management]を選択します。



ステップ2: [Smartports]タブをクリックします。

☰ Cisco Business Dashboard

Front Panel List

Port Status Smartports

Note: Only devices allowing port configuration will be shown below

ステップ3: 確認または設定する特定のポートをクリックします。

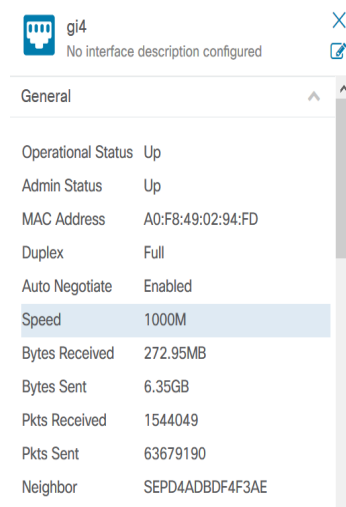
SG350-8PD

Model Information: SG350-8PD Serial Number: P[REDACTED]J



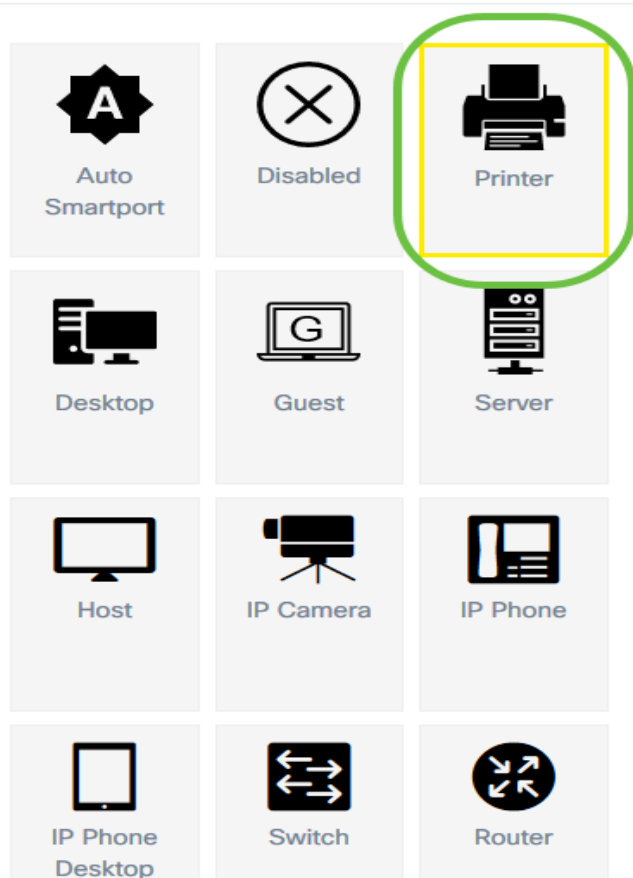
注：この例では、gi4が選択されています。

次に、一般情報パネルが表示され、現在のポートやメソッドなど、Smartportに関する情報が表示されます。



ステップ4：表示されたアイコンからアクションを選択します。

Smartport



- Auto Smartport : ポートをAuto SmartPortとして割り当てます。
- [Disabled] : ポートを無効にします。
- [プリンタ(Printer)] : ポートがプリンタに接続していることを簡単に識別するために、プリンタアイコンをポートに割り当てます。
- [Desktop] : ポートがデスクトップに接続していることを簡単に識別できるように、ポートにデスクトップアイコンを割り当てます。
- [Guest] : ポートに[Guest]アイコンを割り当て、ポートがゲスト用であることを簡単に識別します。
- [サーバ(Server)] : ポートがサーバに接続していることを簡単に識別するために、ポートにサーバアイコンを割り当てます。
- ホスト : ホスト・アイコンをポートに割り当て、ポートがホスト・コンピュータに接続していることを容易に識別します。
- IPカメラ : ポートがIPカメラに接続していることを簡単に識別するために、ポートにIPカメラアイコンを割り当てます。
- [IP Phone] : ポートがIP Phoneに接続していることを簡単に識別するために、ポートにIP Phoneアイコンを割り当てます。
- [IP Phone Desktop] : ポートがIP Phoneデスクトップに接続していることを簡単に識別できるように、IP Phone Desktopアイコンをポートに割り当てます。
- Switch : ポートがスイッチに接続していることを簡単に識別できるように、ポートにスイッチアイコンを割り当てます。
- ルータ : ルータにルータアイコンをポートに割り当てて、ポートがルータに接続していることを簡単に識別します。
- ワイヤレスAP : ポートがワイヤレスアクセスポイント(WAP)に接続していることを簡単に識別するために、ポートにワイヤレスAPアイコンを割り当てます。

注：この例では、[Printer]が選択されています。

これで、ポートがプリンタアイコンでオーバーレイされます。

SG350-8PD

Model Information: SG350-8PD Serial Number: P■■■■■J



これで、Cisco Business Dashboard Probeのポート管理を通じてスイッチポートを正しく設定できました。